公益財団法人 大隅基礎科学創成財団

第 3 期（2019 年度）事業報告

（2019 年 8 月 1 日から 2020 年 7 月 31 日）

報告内容

I. 事業の実施状況

１．　基礎研究の助成事業　2

２．　研究者と社会との新たな連携を構築する事業　3

II. 管理業務

１．財団の体制整備に関する事項　5

２．理事会及び評議員会の開催　5

３．選考委員会の開催　6

４．寄付・会員の状況　6

５．広報活動　6

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団
第 3 期（2019 年度）事業報告
（2019 年 8 月 1 日から 2020 年 7 月 31 日）

当財団は、日本社会の科学基盤の発展に寄与することを目的として、2017 年 8 月 9 日に一般財団法人大隅基礎科学創成財団として創設され､2018 年 8 月 1 日に公益財団法人に認定された。第 2 期は、公益財団法人として、体制の整備・強化を進めた。

第 3 期は第 2 期に引き続き、基礎研究の助成事業、及び研究者と社会との連携構築事業の 2 つを柱として活動した。研究助成については、11 件の助成を決定した。任期満了となる選考委員全員の再任を決定し、応募件数の増加に対応するために、新たに 2 名の選考委員を選任した。研究者と社会との連携構築においては、コロナ禍のために 2020 年 3 月以降の創発セミナー、小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い及び市民講座を延期または中止せざるを得なかったが、新たに微生物学の振興を目指した活動を立ち上げる準備を進めた。

事業を支える管理業務においては、理事会、評議員会をオンライン会議を活用して開催する等、適切に実施した。任期満了となる理事 10 名及び任期途中で辞任した理事 2 名、計 12 名の再任を決定した。また、活動の増強のため理事 1 名を新たに選任した。財団ホームページからの情報公開を進めるため、公告方法を官報による公告から電子公告に変更した。

第 3 期の事業の実施状況、及び管理業務について報告する。

I. 事業の実施状況

1．基礎研究の助成事業

第 3 期研究助成の公募では、2019 年 5 月 10 日～6 月 30 日の応募期間に全国から、基礎科学（一般）85 件、基礎科学（酵母）33 件の応募があり、選考委員による書類審査の後、選考委員会を開催して厳正に審査し採択候補を選定した。採択案は、2019 年 9 月 27 日の理事会で承認された。第 1 期から第 3 期までの助成件数と助成金額を表 1 に、基礎科学（一般)、及び基礎科学（酵母）の研究助成対象者と研究課題をそれぞれ表 2-1、表 2-2 に示す。

表 1. 研究助成の件数と金額　（金額単位：千円）

	基礎科学（酵母）		基礎科学（一般）		計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
第 1 期	4	10,000	-	-	4	10,000
第 2 期	3	12,000	9	32,700	12	44,700
第 3 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
計	10	34,000	17	80,700	27	114,700

表 2-1. 基礎科学（一般）研究助成対象者及び研究課題　（氏名の五十音順）

氏名	所属	研究課題
稲田 のりこ	大阪府立大学大学院	クロマチン構造制御における細胞核内アクチン繊維の新規機能の解明

川辺 浩志	公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構	神経細胞におけるプロテアソームを標的にしないユビキチン化を介した細胞骨格制御機構の解明
佐藤 良勝	名古屋大学	マイクロ流路を用いた植物幹細胞の極性生長の新生誘導とその分子機構解明
茶谷 悠平	東京工業大学	翻訳伸長の連続性を保証するリボソームトンネル - 新生ポリペプチド鎖間相互作用の解析
原 雄二	京都大学大学院	骨格筋幹細胞の「First Division」を制御する機構の解明
正井 久雄	公益財団法人 東京都医学総合研究所	Cdc7-ASK(Dbf4)キナーゼの動物個体レベルでの機能の解明
増田 真二	東京工業大学	紅色細菌をモデルにした硫化水素・ポリスルフィドの代謝とシグナル変換機構の解明
松尾 亮太	福岡女子大学	ナメクジが脳で直接光を感知する分子機構の解明

表 2-2. 基礎科学（酵母）研究助成対象者及び研究課題　（氏名の五十音順）

氏名	所属	研究課題
塩崎 一裕	奈良先端科学技術大学院大学	栄養シグナル伝達経路による細胞の高温増殖制御
中岡 秀憲	東京大学大学院	低代謝状態における細胞質の物性変化とその適応的意義
吉田 知史	早稲田大学	細胞内 ATP の可視化によりエネルギー恒常性の基盤を解明する

2019 年 12 月 13 日に研究助成贈呈式を行い、理事長より助成対象者に贈呈書が授与された。基礎科学（酵母）の助成対象者には、併せて大隅基礎科学創成財団酵母コンソーシアムフェローの称号が授与された。

第 4 期研究助成の公募を開始し、2020 年 5 月 7 日～6 月 30 日の応募期間に全国から、基礎科学（一般）124 件、基礎科学（酵母）28 件の応募を受け付けた。応募件数の増加に対応するため、2020 年 7 月 21 日の理事会において選考委員 2 名を新たに選任した。

２．研究者と社会との新たな連携を構築する事業

(1)　創発セミナー

財団の活動に賛同する基礎研究者と企業の研究者等が自由に意見を交わし、基礎科学と産業界の新しい協力関係を構築する場として創発セミナーを年間 9 回開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 6 回（2020 年 3 月 5 日）以降の予定を延期または中止した（表 3)。第 9 回に予定していた感謝の集いは中止したが、財団の支援者に活動報告の冊子を送付した。

研究者と企業との新しい連携に関するアドバイザー会議での議論に基づいて、博士課程進学者の現状と就職問題についてアンケート調査を実施し、その結果と提言について 2020 年 1 月 29 日に記者発表を行い、多くのメディアに取り上げられた。

表３．2019 年度創発セミナー

回	日程	場所	テーマ	参加者
1	2019/9/13（金）	学士会館（東京）	[アドバイザー会議] 大学と企業における人材をめぐる現状と将来	20 名(演者 2，アドバイザー8，財団関係 10)
2	2019/10/23（水）	東工大田町 CIC（東京）	極限環境生物の驚異の特殊能力 ― 人類は何を学べるか	46 名(演者 2，研究者 4，企業 17，財団関係 23)
3	2019/11/25（月）	TKP ガーデンシティ博多新幹線口（福岡）	[酵母コンソーシアム] 酵母の培養中のストレス応答と環境適応機構	46 名(演者 2，研究者 14，企業 23，財団関係 7)
4	2019/12/16（月）	学士会館	[研究助成贈呈式] 講演：寿命は何が決めているのか	41 名(演者 1，研究者 11，企業 14，財団関係 15)
5	2020/1/31（金）	東工大田町 CIC	植物の進化 ― 見えてきた謎と育種への応用	38 名(演者 2，研究者 4，企業 13，財団関係 19)
6	2020/3/5（金）	学士会館	[アドバイザー会議] 研究開発における大学と企業の役割の明確化と新しい連携のあり方	延期
7	2020/4/24（金）	東工大田町 CIC	生物からみた環境問題と人類の未来	延期
8	2020/5/22（金）	奈良県コンベンションセンター	[酵母コンソーシアム]	延期
9	2020/7/17（金）		[感謝の集い]	集い開催は中止し、活動報告を送付

(2) 市民講座

市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化を醸成すること及び地域社会への貢献を目的として開催を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止を決定した。

(3) 次世代を担う小中高生と研究者のふれ合いの集い

次世代を担う人材を育てるために、小中高生が最先端の科学に触れ科学者と交流する場として、第 4 回 小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集いを 2020 年 3 月 28 日（土）に広島県の 5-Days こども文化科学館で開催する準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 1 年延期し、2021 年 3 月 27 日（土）に開催することとした。

(4) 微生物機能探究コンソーシアム（略称：微生物コンソーシアム）の企画

地球環境や生態系における微生物の役割やその及ぼす影響は極めて大きく、それを対象とする研究にもまだまだ未知の領域が多く残されている。世界的に見れば微生物学は動物学、植物学と並ぶ基礎生物学の一大分野であるが、日本国内での微生物学は応用的な学問諸分野の一部と位置

付けられることが多く、微生物そのものの理解を目的とした学問の位置づけはたいへん立ち遅れている。以上の現状認識から、趣旨に賛同する基礎科学研究者と企業等の参加を募り、アカデミアと企業等が連携して微生物学の発展を図ることを目的として活動を行う微生物機能探究コンソーシアム（略称、微生物コンソーシアム）を立ち上げることを企画し、来期の立上げを目指して検討を進めた。

II.　管理業務

１．財団の体制に関する事項

2019 年 10 月 23 日の第 2 回定時評議員会終結時に 2 年の任期満了となる理事 10 名及び任期途中で辞任する理事 2 名の計 12 名について、理事として再任を決定した。2019 年 11 月 1 日の第 2 回理事会において、代表理事及び業務執行理事が選定された。財団活動の増強のため、2020 年 7 月 27 日臨時評議員会において新たに理事 1 名を選任した。それぞれについて、変更登記及び内閣府への変更届出を行った。

2020 年 2 月 3 日に 2 年の任期満了となる選考委員全員の承諾を得て、2020 年 1 月 31 日第 3 回理事会において全員の再任を決定した。

財団ホームページからの情報公開を進めるため、2020 年 7 月 27 日臨時評議員会において、公告方法を官報による公告から電子公告に変更し、定款の変更登記を行った。

第 2 回定時評議員会にて承認された 2019 年度事業報告及び計算書類等の定期提出書類、及び 2020 年 7 月 21 日開催の理事会にて承認された 2020 年度事業計画及び収支予算に基づき、事業計画に係る定期提出書類を内閣府に提出した。また、財団のホームページに掲載した。

２．理事会及び評議員会の開催

(1)　第 1 回理事会（2019 年 9 月 27 日）

第 1 号議案　第 2 期（2018 年度）事業報告・計算書類の承認の件

第 2 号議案　理事候補者 12 名の決定の件

第 3 号議案　第 3 期研究助成の決定の件

第 4 号議案　第 2 回定時評議員会招集の決定の件

(2)　第 2 回定時評議員会（2019 年 10 月 23 日）

第 1 号議案　第 2 期（2018 年度）事業報告・計算書類の承認の件

第 2 号議案　理事 12 名選任の件

(3)　第 2 回理事会（2019 年 11 月 1 日）（みなし決議）

第 1 号議案　代表理事の選定の件（大隅良典）

第 2 号議案　業務執行理事（常勤）1 名の選定の件（飯田秀利）

第 3 号議案　業務執行理事（常勤）1 名の選定の件（大谷清）

(4) 第 3 回理事会（2020 年 1 月 31 日）（みなし決議）

第 1 号議案　選考委員の選任の件

(5) 第 4 回理事会（2020 年 4 月 6 日）（オンラインを利用した会議）

第 1 号議案　公告方法の変更に伴う「定款」一部変更（案）の決定の件

第 2 号議案　事務局規程の一部変更の承認の件

第 3 号議案　微生物に関わるコンソーシアム設立とそれに伴う変更認定申請の件

第 4 号議案　収益事業の追加に伴う「定款」一部変更（案）の決定の件

第 5 号議案　理事候補者 1 名の決定の件

(6) 第 5 回理事会（2020 年 7 月 21 日）（オンラインを利用した会議）

第 1 号議案　選考委員の選任の件

第 2 号議案　選考委員会規程の変更の件

第 3 号議案　微生物機能探究コンソーシアム（略称、微生物コンソーシアム）設立の件

第 4 号議案　事業の追加に伴う定款変更（案）の承認の件

第 5 号議案　第 4 期（2020 年度）事業計画書及び収支予算書等の承認の件

第 6 号議案　資金運用の件

第 7 号議案　第 3 期第 1 回臨時評議員会の招集の承認の件

(7) 第 1 回 臨時評議員会（2020 年 7 月 27 日）（オンラインを利用した会議）

第 1 号議案　理事 1 名選任の件

第 2 号議案　公告方法に変更に伴う定款変更の承認の件

3．選考委員会の開催

選考委員会（一般）

第 1 回選考委員会開催（2019 年 9 月 3 日）

第 3 期研究助成（基礎科学(一般)）の助成候補者選定に関する選考委員会

選考委員会（酵母）

第 1 回選考委員会開催（2019 年 8 月 27 日）skype 会議

第 3 期研究助成（基礎科学(酵母)）の助成候補者選定に関する選考委員会

4. 寄付・会員の状況

第 3 期は、個人、法人・団体からの寄付、及び法人会員年会費として総額 88,386,022 円を受領した。週 1 回行う理事長との打合せにおいて収支の状況を報告した。

2020 年 7 月 31 日現在の寄付、会員の状況は表 4 の通り。

表 4．寄付及び会費の状況

	個人	法人、団体寄付	法人、団体会費	計
第 3 期	50,671,022 円 （256 件）	2,715,000 円 （6 件）	35,000,000 円 会員数 25	88,386,022 円

5.　広報活動

財団のホームページに財団の事業及び活動の紹介を適時に行った。

パンフレットの内容更新等、寄付金及び会員募集に必要なツールの整備を行った。

アドバイザー会議での議論及びアンケート調査に基づいて、博士課程進学者の現状と就職問題について 2020 年 1 月 29 日に記者発表を行い、多くのメディアに取り上げられた。

第 4 回研究助成の公募について関連 28 学会に連絡をとり、学会ホームページへの掲載及び学会からの案内送付を依頼した。研究助成の応募件数は増加している。

以上